

# 若手ウメ農家は なぜウメを切り ウバメガシを植えるのか

和歌山県みなべ町・みなべ梅郷クラブ

文=編集部

写真=高木あつ子



ウメの白干し。みなべ町の農家はここまで加工して出荷する。町の農家数は1300戸ほど。ウメの栽培面積は2160ha、出荷量は年間2万3900t



ウメの花が咲き誇る

2月初週、みなべ町を訪ねると満開のウメの花が広がっていた。平野部はもちろん、丘陵部のけっこうな急傾斜まで、ぐるりをびっしりと梅園が囲む。町の耕地面積の9割が樹園地というのもうなずける、まさにウメの町だ。そんな町で、ウメ農家の後継者、町の若手農家で作くる4日クラブ・みなべ梅郷クラブ（以下「梅郷クラブ」）のメンバーが最近ウバメガシの植林をしたという。いったいなぜなのか？

辺り一面の梅園に見惚れていると、「じつは斜面の園から耕作放棄地が始めています」と山本宗一郎さん（32歳）。彼は、放棄梅園対策に取り組むプロジェクトのリーダーだ。

## 日本一の産地にも放棄梅園が増えてきた

みなべ町は「南高梅」発祥の地で、国内生産量の約3割を占める日本最大のウメ産地。全国のウメの栽培面積が1994年をピークに減っても、みなべ町はまだ面積を増やし続けた。だがそれも2011年で頭打ちになり、16年からは減少傾向に転じている。その頃から少しずつ増えだしたのが放棄梅園だ。19年10月時点では約19haが確認されている。

背景には、やはり農家の高齢化と担い手不足がある。町内の60歳以上のウメ農家で後継者がいるのは約2割しかない。こうしたなかで、作業性の悪い急傾斜の梅園から耕作放棄されるケースが増えている。

放棄梅園では、葉に特徴的なモザイクを発症させるウメ





梅郷クラブのメンバー。左から井出慎太郎さん、山本秀平さん、山本宗一郎さん、平野智也さん、柏木研哉さん